

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成27年4月21日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 数学A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 数学B, 理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

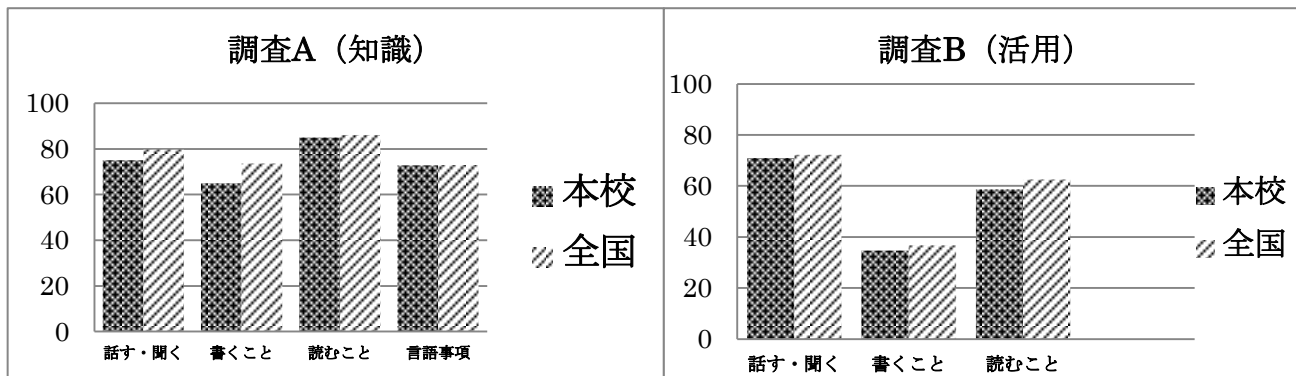
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)と理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題のどちらも、すべての領域において全国平均を下回っています。領域別の正答率を見てみると、全国平均に一番近いのは、A問題の「言語事項」で72.8% (全国平均は72.9%)、全国平均に一番遠いのはA問題の「書くこと」で65% (全国平均は73.6%) でした。どの領域もA問題のほうが正答率が高く、基礎的な知識はほぼ身に付いていますが、それを活用する力が十分でないことがうかがえます。

(2) 成果と課題

話す・聞く

- ほとんどの問題の正答率が県平均を若干下回っていました。特に、意図に合った質問として適切なものを選択する問題は正答率が64%であり、全国平均(76.1%)を大きく下回っていました。

書く

- ほとんどの問題の正答率が県平均を下回り、他の領域に比べて無解答率が高い傾向が見られました。特に、文章の構成や展開などを踏まえ根拠を明確にして自分の考えを書く問題は、正答率28%、無解答率が11%でした。

読む

- 登場人物の心情や行動を考えて内容を理解したり、言動の意味を考えて内容を理解したりする問題は、正答率が県平均を上回ったものの、その他はほとんどの問題で県平均を下回っていました。

言語事項

- ほとんどの問題の正答率が県平均をわずかに下回っていました。また、漢字を正しく読んだり書いたりする問題や古典の作品名を漢字で書く問題は、無解答率が高い傾向にありました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業において、生徒の日常生活に身近な話題を題材にした課題を仕組み、読んだり、書いたりする活動の場を機会あるごとに取り入れます。このような活動を通して、苦手意識を持つ生徒の国語学習への興味・関心を引き出し、学習意欲の向上と、他者に説明しようとする態度や能力の育成に努めます。また、話す・聞く活動では、目的に沿った話し方や聞き手を意識した話し方を身につけるよう指導していきます。
- 普段から文章を書いたり、考えをまとめたりすることに慣れさせ、書く力をつけていきます。
- 漢字帳の提出と点検、ノートチェックなどをていねいに行い、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【家庭では】

予習の仕方

- (1) 声を出して教科書を読みましょう。3回は音読しましょう。
- (2) 新出語句(読み、意味、熟語)を確認し、練習しましょう。
- (3) わからない言葉の意味を辞書で調べましょう。(国語辞典は必需品です。)

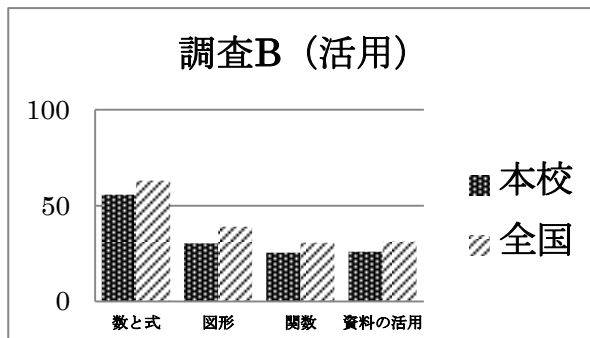
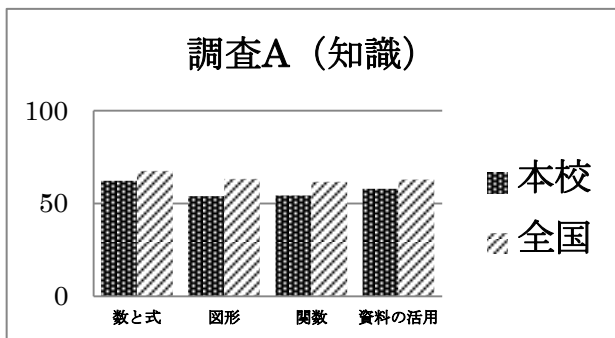
復習の仕方

- (1) 今習っているところの音読・漢字練習をしましょう。
- (2) ノートやワークブックを使って復習しましょう。
- (3) テストの後にはもう一度解き直し、わかるようにしておきましょう。

2 数学

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題のどちらも、すべての領域において全国平均を下回っています。問題形式ごとの正答率を見てみると、選択肢から選ぶ問題は、A問題の57.8%、B問題の41.3%に対して、理由や方法を記述する問題はB問題の28.7%で、考えを筋道立てて適切に記述することができていない傾向が見られました。

(2) 成果と課題

数と式

- 比を求める問題など、知識を問う問題によく取り組んでいる傾向がありました。一方で、技能を問う計算問題や数学的な見方や考え方を問う問題では、すべての問題で全国平均を下回りました。

図形

- 同位角の意味やひし形の対角線の性質など、知識を問う問題にはよく取り組んでいる傾向にありましたが、全体的に全国平均を下回りました。特に、証明などの筋道を立てて説明する記述式の問題に弱い傾向が見られました。

関数

- 具体的な事象について、関数関係を見出す問題には、比較的によく取り組んでいました。一方で、グラフから式を求めるなどの技能を問う問題に弱い傾向が見られました。

資料の活用

- 資料を読み取る問題では全国平均を若干上回ったものの、全体的に全国平均を下回りました。特に確率の分野で非常に弱い傾向が見られました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、学び合い学習を取り入れ、苦手意識を持つ生徒の学習意欲を向上させます。また、他者に説明することによって、理解をより深めることができると考えます。
- 小テストでは出題範囲を狭くしたり、問題を前もって提示したりして、取り組むべき課題を明確にします。また、問題の難易度を生徒の実態に合わせて作成し、生徒達の頑張りによって、大きな達成感を感じられるような工夫をしていきます。
- すくすくテストを活用し、基礎・基本の計算技能の定着を目指します。
- 定期テストや実力テストなどの後は答案を分析し、それぞれの生徒の苦手な領域を克服する手だてを実行していきます。(小テストや補充指導など)
- 小テストやノートチェックなど、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけられるよう努めます。
- 授業の前は教室に早く行き、質問がしやすい雰囲気をつくるなど、生徒が積極的に学習できる環境づくりに努めます。

【家庭では】

予習の仕方

- (1) 教科書の次の授業範囲を読み、大切だと思うところにアンダーライン等を引きましょう。
- (2) 例題を解いてみましょう。解けなかった例題、問題に印をつけて、必ず質問する習慣をつけましょう。

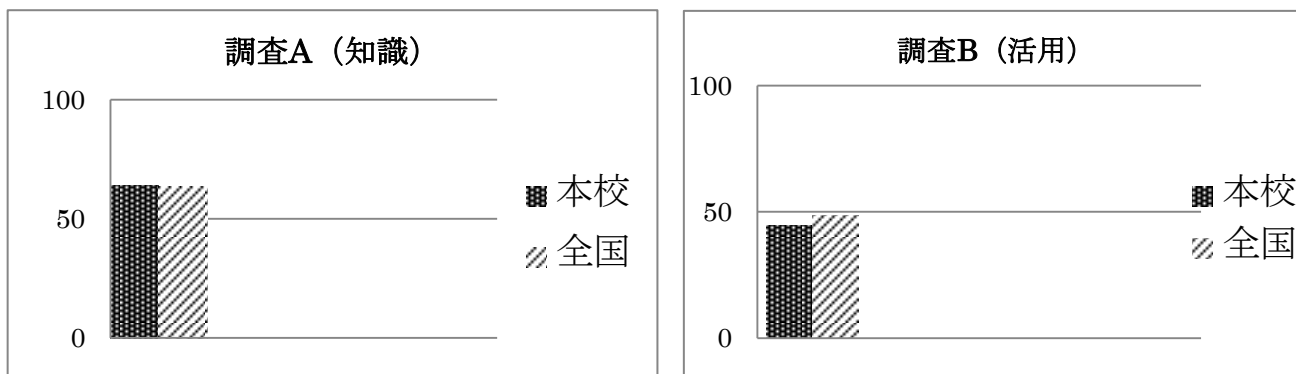
復習の仕方

- (1) 授業で学習した課題は、その日のうちに必ず復習をし、授業ノートの間違いを理解しましょう。
- (2) 計算力をつけるためには、反復練習が必要です。本当に理解しているか、実際に問題を解いて、確かめましょう。解き方がわからないときは教科書の例題やノートを見ながら解きましょう。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



主として「知識」に関する問題は、正答率が64.3%で全国平均(63.8%)を若干上回っています。しかし、主として「活用」に関する問題は、正答率が44.6%で全国平均(48.8%)を若干下回っています。

(2) 成果と課題

第1分野 (物理的領域・化学的領域)

- ・炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムを使用した問題では、正答率が低く実験結果をもとに考察する力が身につけていない傾向が見られました。

第2分野 (生物的領域・地学的領域)

- ・天気図から風力を読み取る問題は、正答率が高く、天気の記事を正しく理解している傾向が見られました。
- ・人の「目のレンズと網膜」について考える問題は、正答率が全国平均に比べ低く、実験の方法について適切な説明をする力が身につけていない傾向が見られました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験や観察の取り組みを充実させ、生徒の興味、関心、意欲が高まるようにします。実験や観察で取り組んだ結果を分析したり考察したりすることで、課題解決が深まるようにします。
- 自然の事物・現象の中に問題を見だし、多様性や規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させます。
- 学習課題を日常生活に当てはめながら考えるようにします。このことによって、学習したことを実生活に役立てることができるようにします。

【家庭では】

予習の仕方

- (1) 次の授業で学習するところは、教科書を読んで、大まかな見通しを立てておきましょう。また、すでに学習したところと関係あるところも目を通しておきましょう。
- (2) 観察、実験の場合は、目的、準備、方法、結果の予想、安全性について、十分調べて頭に入れておきましょう。

復習の仕方

- (1) 授業中の学習を思い出しながら、習ったことをノートに整理して書きましょう。
- (2) 学習したことを忘れないように、教科書、ノートを見ながら、ワーク(問題集)を解きましょう。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

〈調査項目〉生活習慣について	本校%	県平均%	全国平均%
朝食を毎日食べている。	89.0	86.2	83.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	31.0	33.3	31.4
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	59.0	59.7	56.2
平日2時間以上テレビを見る。	64.0	55.1	55.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	33.0	31.1	36.3
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする。	16.0	25.2	31.3
平日読書を30分以上している。	37.0	34.5	30.6

朝食、起床、就寝については、全国平均を上回り、規則正しい生活習慣が身についています。規則正しい生活リズムが定着しているのは家庭の協力によるものです。

平日に2時間以上テレビを見る生徒が64%、2時間以上ゲームをしたり、メールやインターネットをしたりする生徒も33%以上おり、いずれも県平均を上回っています。

家庭では、37%の生徒が毎日30分以上読書をしています。一方で63%の生徒にはほとんど読書の習慣が身についておらず、そのうち29%の生徒は「全く読書しない」と答えています。

〈調査項目〉家庭学習について	本校%	県平均%	全国平均%
家で、計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばしているも含む)	52.0	50.2	48.8
平日2時間以上勉強している。	29.0	30.1	35.7
平日0～1時間勉強している。	33.0	28.7	25.6
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	92.0	91.9	89.3
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	41.0	36.1	35.3
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	64.0	58.1	52.0

家庭で計画的に勉強をしている生徒の割合は52%であり、全国平均、県平均を上回っています。また、平日、2時間以上の学習をしている生徒は全体の29%です。一方、勉強時間が1時間に満たない生徒が全体の33%も占めており、学習に対する意識の差、学習時間の差が大きいことが課題です。

家庭学習では、宿題ができていない割合が92%と高い反面、予習は41%や復習は64%の割合の生徒しか取り組んでいないようです。特に復習はより深い理解や定着につながる重要な学習活動です。しっかり家庭学習に取り組んでもらいたいと思います。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 各教科で、復習問題や練習問題のプリント、授業内容をノートにまとめる宿題等を出しています。
- 毎日の自主学習ノートには、その日に学習したことの復習や各教科の小テストに向けての学習を行い、基本的な内容を確実に理解するように指導しています。
- 授業では、理解度を把握するために、きめ細かく小テストなどを行います。基本的な内容の理解が深まるように授業中に「学び合い」を取り入れ、問題の解き方・考え方などを学んでいます。さらに、学んだことを活用して、書いたり、話したりする言語活動にも力を入れています。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活ができているお子さんが多く、ご家庭の協力によって子ども達は成長できています。
- 家庭学習については、決まった時間に決まった場所で学習ができるように学習環境を整え、子ども達の学習意欲を高めていきましょう。
- 学習の結果も大切ですが、学習の過程（学習内容、学習方法、理解度）についても見守ってください。良いところをほめ、励ますことで意欲が高まっていくと思います。
- テレビ、ゲーム、インターネットの時間はご家庭でルールを決めて守らせ、バランスのよい時間の過ごし方ができるように励ましましょう。パソコン等の通信機器については、使用方法や使用時間についての把握もお願いします。